

(長岡京市) 自分ごと化会議 in 長岡京 第5回議事メモ

分科会	第4分科会 (子ども・子育て)
コーディネーター	石渡 秀朗
ナビゲーター	なし
説明担当者 (自治体)	なし
日時	2021年10月23日 (土) 13時30分から16時00分
場所	開田自治会館
その他	参加者数 <u>10</u> 名 欠席者数 <u>17</u> 名

趣旨・概要

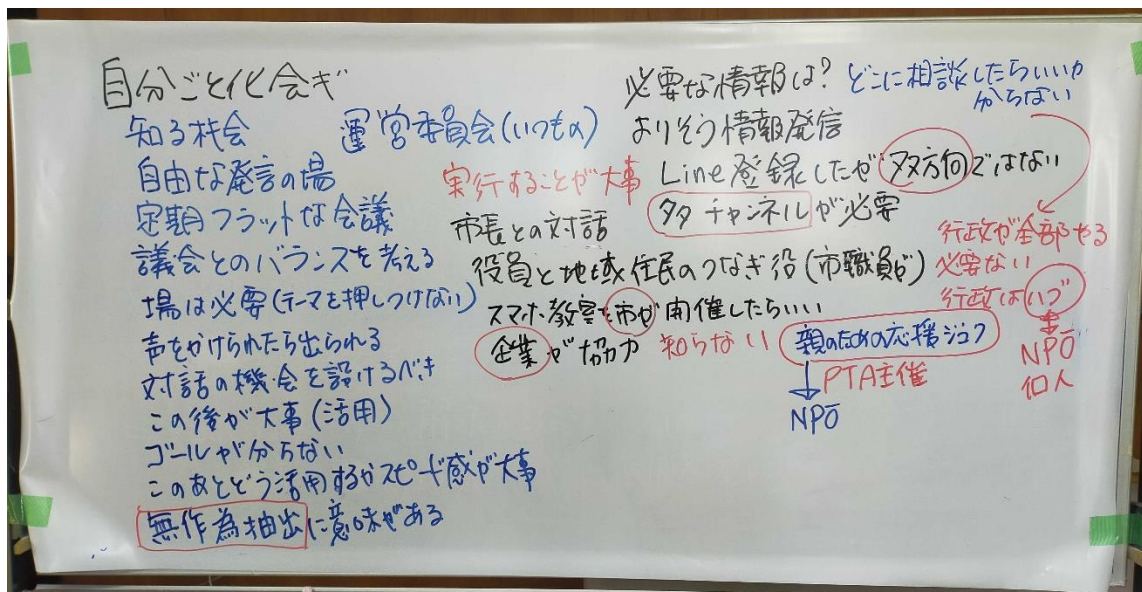
- 提案書(案)をもとに議論

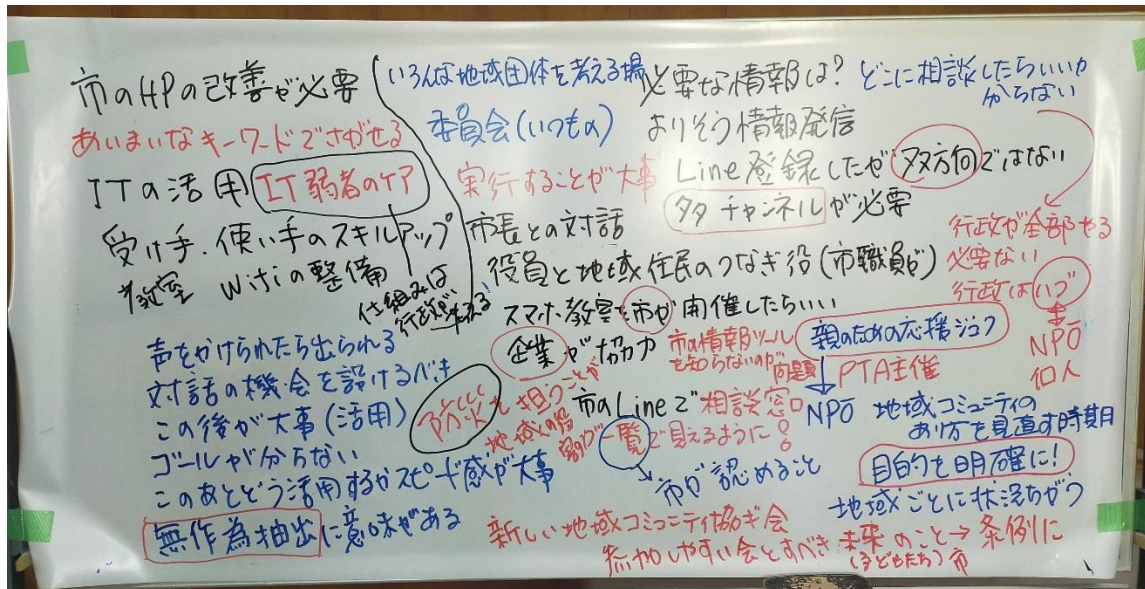
主な論点

論点① 提案書(案)について

論点② 自分ごと化会議 前半戦を終えて

ホワイトボードの写真





協議の流れ

コ) 今回は前半戦の最終回となる。

今後のスケジュールについて説明。

委) 条例検討委員会の委員はどのような構成か?

コ) 学識経験者、自治会・地域コミュニティ、市民活動団体、市民公募委員らで構成。

委) 来年4・5月の全体会では、検討委員会の方とフラットに話ができる?

コ) その通り。

提案書の構成について説明。

第I章 まちの課題 ～それぞれの課題と解決する方法～

53 ページの個人の解決する方法 A) に「無作為で市民を集めた会議を開催し、様々な人に地域のことを自分事として考え、市民同士の議論を行う。」とある。この自分ごと化会議のような会議について、ご意見をいただきたい。

委) 意見はあまり出せなかったが、知ることは多かったので自分にとってはプラスになった。

委) 知り合いが奈良で公民館を運営している。おでんを囲んでこのような会議をして、そこで出た意見をもとにお祭りをして、公園を活性化する活動をされている。誰もが安心して自由に発言できる場にしていこうと、定期的に開催することが大事。参加者同士のネットワークが出来てくると思う。もっとフラットにお話できる会議があればいいと思う。

PT) 市職員として参加している。今回の会議のように、最終的な目的が明確にあって市民同士でディスカッションするのは良いと思うが、例えば行政に申し入れをするための議論を継続していくという目的であれば、市民の代表である議会とのバランスをどうするのか

委): 委員、コ): コーディネーター、ナ): ナビゲーター、市): 説明担当者

についても考えないといけない。

委) 会議で情報を与えるばかりでは、市民からの湧き上がる声が出てこないのではないかな。市民からの声が湧き上がる会議をしてほしい。

委) この会議の目的が第4回目くらいで見えてきたと感じている。我々が感じている生活に密着した問題の掘り起こしをするのか、その先にある条例や、行政へ何かを求めていく目的なのかが不明確だった。参加してみて、思いが行政に伝わらないというジレンマを皆さんお持ちなのではないかと感じた。思いが伝えられる機会が必要。

また今回は大人数での会議だったので、一回も発言されない方、指名されたときだけ発言される方もおられた。人数の規模もテーマに応じて変えていくとよい。無作為でたくさんの人を呼ぶだけでは、議論ではなく意見収集の場になってしまう。議論のやり取りが少なかったように思う。

委) 無作為抽出で選ばれた。会議のための会議になっては意味がないので、条例が出来上がった後に、どのようなことを実施していくのが重要だと思っている。

委) 会議自体は有意義だと思うが、この会議のゴールが見えづらい。委員のなかでも認識のズレがあるのではないかな。このような会議は芯をしっかりと持つことで活性化するのではないかなと思う。発散する場なのか、収束していくのかについての共通認識がなかった。

委) せっかく長岡京市に住んでいるので、役に立ちたいという思いで参加している。最終の姿が見えてこない。提案書から具体的にどう進めていくのかが見えれば、もっと意見が出せると思う。まとめた意見の何個かを実現するなどの具体性とスピード感がほしい。

委) 現在学生で、両親が自治会の仕事で大変そうだった。この会議でいろいろなことが知れてよかった。

PT) 幅広い年齢層で話し合うことは、行政の質を良くしていくためにいいことだと思っている。ただ毎回の会議で何を発展させていくのかという意味合いがつかみきれなかった。段取りなどをもっと詰めてから会議を行うべきではなかったのかなと思う。せっかく市民の皆さんから意見をいただいているのに、それを深められていないと思う。市役所が行っているほかの会議でも、この反省を活かして改善していけたらと思う。

コ) 自治会や地域コミュニティ協議会の運営で、いつもの人たちだけではなく市民を巻き込んだ会議をやるのが地域コミュニティの活性化に繋がるというご意見があったが、これについてはどうか？

委) 自治会の役をやっている。自治会の役員と市民(=自治会員)が話し合う場はない。各地区に運営委員があり、運営委員会が年数回行われているが、例年通りの連絡会議がほとんど。新しいことを立ち上げる会議は、自治会ではあまり行われていないのではないかな。例年通りの運営をいかにスムーズに進めていくかの会議。新しいことに対して消極的。

委) 地域コミュニティ協議会でも、新しいことはなかなかできない。役員の負担感もあり、活動が小さくなっている状況がある。今回の無作為抽出のというやり方は面白いと思う。自分から手を挙げるのは遠慮する人もいるので、こういった集め方は正解だと思う。

委) こういったやり方で意見は聞けるが、一番の問題はどうやって実行するか。聞いた以上

は実行しないといけない。

コ) 普段自治会で意見はどのように聞かれている？

委) 普段の会話などから。意見を聞く場を設けているわけではない。

委) 行政が市民の意見を聞く場としては、「市長との対話のわ」がある。市長と直接意見交換ができる。

委) 興味がある人はいるので、きっかけがあれば。

委) 無作為抽出だといろんな意見が聞けると思うが、自治会や地域コミュニティ協議会の場で発言をすると、役をやらされるとか、発言したことに責任を持たなければいけないのではという理由で声を上げにくい。意見を出すと「あなたがやってください」と言われると困ってしまう人が多いのでは。また、ずっと役をされている方と、意見を出す側に対立関係が生まれそう。第三者のファシリテーターなども必要だと思う。

コ) 議論の場は重要だが、会議の進行や実行に移すことに課題があるというご意見だった。

行政の情報が伝わってこないというご指摘を多くいただいている。回覧板や広報紙だけでなく SNS の活用など、ご意見があれば。広報紙は自治会が配っている？

委) 市の委託を受けたシルバー人材センターが全戸配布している。

PT) 住民の立場で言えば、自分が住んでいる地域の情報を自ら積極的に取りにいけていない部分があるかもしれない。長岡京市は、SNS や LINE での発信に注力しているが、リアクションが少ないように思う。市民が生活するうえで必要な情報をこちらが勝手に抽出して発信しているように感じる。市民が実際に必要な情報は何なのか、寄り添うという視点で情報発信を考えていかないといけない。

委) ワクチンの申し込みを機に市の LINE に登録した。もっと双方向のやり取りができるようになれば、市民の意見を吸い上げられるのではないかと思う。

委) 市民活動団体も情報発信を工夫している。Facebook は 40～50 代、20 代は Instagram、Twitter も必要。多チャンネルでいろんな人に伝わるようにしている。LINE はすごく有用。チャットボットでのやり取りにも期待している。ただ高齢者にはハードルが高い。ツールの勉強会を企画すると面白いのではないか。IT 企業は CSR 活動として教室などを開催している。

委) 提案書の 57 ページ《その他の課題》に「世代によって情報を取得する媒体が違う。」とある。電話、ネット、SNS など、うまく使い分けていけばよい。いいことしているのに知られてないことが多くもったいない。広報紙は置いておけるというメリットがある。

コ) 提案書の 60 ページ「子どもの困りごとができた時に気軽に相談できる場所がない」という意見が多かった。解決策として、前回市民活動団体の方に来ていただいたが、そういった団体とも連携をとってうまくつなげるシステムの構築が必要、それぞれの役割を明確にする必要があるというご意見もいただいている。民間で活動されている団体のことを知らないで、そこをどうつなげていくか。

委) 困りごとが何か具体的に想像がつかない。小学校に上がると同級生ができるので相談ごと・困りごとはないのではないかと個人的には思っていた。相談ごと・悩みごとに応じて対応する部署が変わってくるのではないか。

コ) 相談窓口は行政だけではなく、民間の団体もある。そういったところにつなげるには？

委) 市の HP は充実しているし、SNS での発信もしているので、長岡京市はかなりやっている方だと思う。ただどこに相談したらいいかが分からない。相談の受け口はあるが知らない。先ほど自治会で、意見を聞いた以上は検討しなければならないという話があったが、長岡京市の8万人が意見を言ったら収集がつかなくなるので、ある程度どこかでまとめなければいけない。行政がすべてを受け付けるのはしんどいと思う。行政をハブとして NPO 法人などに情報を発信できる仕組みがあればと思う。団体との協働が必要。

委) 小学校に上がると送り迎えがないので、直接先生や親同士と話す機会が減る。また勉強が始まるので、一気に困りごとが複雑になる。勉強が分からない、授業中じっとしてられない、不登校など。発達の特徴がそこで分かってくる。発達障害の子どもは6人に1人くらいと言われている。親御さんはどこに相談したらいいのか、どこまで学校に求めているのか、などの悩みを持っている。そういった方と仲間になって、困っていることを相談し合いながら、団体として市と協働していきたいと思っている。小学校に上がる前に PTA が「親のための応援塾」というものをやっている。そこにはほとんどの親御さんが来られるが、そのあとの PTA の総会や学級懇談会には一切来られない方もいる。出席率の高い「親のための応援塾」の場で団体の活動を紹介できればいいと思う。「親のための応援塾」の内容は、給食や学校のルール、登校班などの紹介と、発達や身体測定などの検査もある。そこで通級教室についても少し紹介されるが、その説明だけではあまりよくわからない。最初に、入学後にしんどいなと思ったら私たちに相談してくださいね、という話があれば、困りごとを相談しやすくなるのではと思う。

コ) 「親のための応援塾」の周知はどのようにされている？

委) 市から案内が来る。

～休憩～

委) 市の公式 LINE について、悩みや相談と入力すると、「よくわかりません」と表示される。NPO 法人や担当窓口を表示できるようにするべき。すぐできるはずだからやってほしい。

委) 様々な団体が様々な考えで活動されている中で、団体名と実際の活動内容が違うなどのケースもあり、意図しない団体に巻き込まれる可能性もありうるので、やみくもに紹介はできないと思う。長岡京市が認めている団体をランク付けなどの仕組みづくりが必要かもしれない。

委) 市役所の窓口はどこくらいは表示してほしい。何らかの回答はできるように。

委) 市の認可がある団体だと、相談者も安心感があると思う。

第Ⅱ章 まちづくりの担い手ごとにできること

コ) 提案書の 80 ページの課題 3 に地域コミュニティ協議会についてのご意見が出ている。現在市内 10 小学校区のうち 2 校区で未設立となっているが、全校区でつくるべきというご意見と、地域コミュニティ協議会を条例化してはどうかというご意見をいただいている。

委) 地域コミュニティ協議会の活動は前年度の行事をこなすので手一杯。意見を吸い上げて新しいことをやっていく活動はない。今の状態で発展させても意味がないと思う。担い手がない。

コ) 自治会や地域コミュニティ協議会の事業について、アウトソーシングしてはどうかというご意見もあった。自治会や地域コミュニティ協議会の在り方を見直していく時期なのかもしれない。

委) 地域コミュニティ協議会の目的が薄れている気がする。神足小校区と六小校区で地域コミュニティ協議会が作られていない理由が気になる。神足小校区も六小校区も昔からの自治会が多い。自治会活動が硬直していて、大きな枠組みを作れないような気がしている。

委) 神足小区は青少年健全育成推進協議会がコミュニティ協議会的な役割を担っている。

委) 八小校区地域コミュニティ協議会は 4 つの部会に分かれている。青少年健全育成推進協議会が母体となっている青少年部会、スポーツ文化部会、環境福祉部会、防災部会。部会ごとに活動の活発さには差がある。地域の小さな団体やボランティアの方などと協働しているかと考えている。行政が長岡京市内のハブになるように、八小校区内のハブを担うのが地域コミュニティ協議会の役割だと思っている。行政とも意見交換ができたらと思っている。

コ) 条例化することにはどう思うか？

委) 条例化するメリット・デメリットが分かっていないので何とも言えない。

委) 地域コミュニティ協議会自体のメリット・デメリットも知らないのではないかな。行事が大変だというお話があったが、学校・学童・保育園・幼稚園の運動会、市民運動会があって地域の運動会もある。そんなにたくさん運動会はいらないという保護者の声もある。お祭りも PTA・自治会・地域コミュニティのお祭りがある。関わっている人が同じ。一緒に開催するなど、他の団体と活動内容や行事を整理することが必要ではないか。

委) 地域コミュニティ協議会が発足した目的があまり見えてこない。自治会の加入率が低下しており、情報の伝達が困難になっている。それを地域コミュニティ協議会でカバーしていくという考えがあったのではないかな。

委) 地域コミュニティ協議会の存在は知らなかった。行事をするのは大変なので、できればみんなで協力していくのがいいと思う。何かできることがあれば協力したい。

PT) 条例化よりもほかにやれることがあるのではないかな。年齢層によってもイメージが違う。参加しやすい環境づくりがまずは大事だと思う。条例化してもメンバーが変わらなければ、限界があるのではないかな。専門家や幅広い年齢層の人を集めてのコミュニティづくりを検討していく必要があると思う。

委) 災害時に市役所や警察につながらないときに、地域コミュニティ協議会のような団体が各校区にあれば受け皿になる。そういったことを条例にできるのではないかな。

PT) 地域コミュニティ協議会の存在意義は市のホームページにも書かれている。地域では自治会や総合型地域スポーツクラブなどの団体が熱心に活動されているが、他の団体とお互いに情報交換する場、横のつながりを持ち続ける機会が多くないため、横のつながりを持つことで、コストダウンや、できなかったことができるのではないかな。そういったことを協議する場が地域コミュニティ協議会。イベントをする団体ではない。皆さんが求めている協議の場を目的として作られたもの。

防災については、団体があるから助けてもらえるのではなくて、普段からの繋がりが大きくなってそういった団体になっていくのだと思う。団体があるから繋がりができるのではなく、繋がりがから団体が生まれる。それをベースに考えていかなければいけないと思う。

委) 災害時などにコミュニティは大事だと思うが、条例化すべきかどうかは分からない。

第三章 市民等と行政の連携をより進めるために

コ) 行政に期待するご意見がある一方で、自分たちでできることは自分たちでやるというご意見が、他自治体と比べて多い。市民の意識レベルが高いと感じる。

委) 市のホームページについて、情報が探しにくいので、改善すると情報が伝わりやすくなるのではないかなと思う。

委) 何を目印に探したらいいのかが分かりにくい。キーワードが明確でなくてもたどり着けるような工夫がほしい。

委) 発信者も受信者も IT をいかに活用できるか。受け手のスキルを上げていくことが重要。地域内で教室をやってもいいのではないかな。タブレットの提供や地域の公民館等の Wi-Fi の環境整備を行政が主導すれば使いやすくなると思う。

委) IT 関連の仕事している。本当に助けなければならないのは、IT 弱者と言われる情報に行きつかない人。ケアが必要なのはそういった人たち。

コ) SDGs でも一人もとりにこぼさないという目標がある。そこを救うのは行政？

委) 難しいが、その仕組みを考えるのは行政かなと思う。専門家や企業の力も必要。

委) 目の前の課題について議論してきたが、条例化するには、将来のこと（子どもたち）のことも考えていく必要があるのではないかな。子どもたちが将来市民参画できるような内容になればと思う。

自分ごと化会議 前半戦を終えて

委) この先、どんな条例になるかを楽しみにしている。

委) 団体の活動を知ってもらえて嬉しい。悩んでいる保護者に伝わればいいかなと思う。条例化に向けて、今後もいい話し合いができればと思う。

PT) 市役所職員としての参加。仕事では聞けないような、皆さんからのいろんなお話を聞かせていただいた。

委) 先日も震度3の地震があった。防災に対する意識が高い状況の中で、避難場所が分からないということがないように情報発信をしていきたい。

委) 自治会の役をやっている。皆さんの率直な思いが聞けた。自治会の活動に反映できればと思う。

委) 長岡京市に住んで五十数年。今まで通りのことをやっていたのでは先細りになる。仕組みを変えるきっかけになる条例にしていきたい。

委) 回を重ねるにつれて、本音の意見が出て有意義な会議になったと思う。地域コミュニティ協議会の会長という立場で参加しているが、皆さんのご意見を聞いてまだまだ発信不足だと感じた。行政と連携しながら地域の発展に努めていきたい。地域コミュニティは接点を持つためのポイントになる団体だと思っている。

委) 皆さんのご意見を聞かせていただいて、参考になった。

委) 自分が知らない課題や団体について知れて、とてもいい機会だった。

PT) 市の職員としても、個人としても、自分ごととして考えるいい機会になった。